

弟子屈町の学びの状況

～令和7年度 全国学力・学習等状況調査の結果について～

令和7年4月17日に全国調査が実施され、過日結果が公表されました。今回の調査では、国語、算数・数学、理科の3教科と学習の状況をとらえるための児童・生徒質問紙調査が実施されました。この調査で把握できる学力や学習状況は児童生徒の状況の一端ですが、学校教育活動の状況や児童生徒の学びの状況と傾向を捉えることで、今後の教育活動の改善を進めていきます。

【令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要】

- 1 調査期日 令和7年4月17日（中学校理科は、4月14日～4月17日のうち1日）
- 2 調査対象 小学校6年生 … 38人 / 中学校3年生 … 44人
- 3 調査内容（1）教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
（2）質問紙調査（①児童生徒に対する調査・②学校に対する調査）

平均正答率の推移（本町・全国）

【小学校】

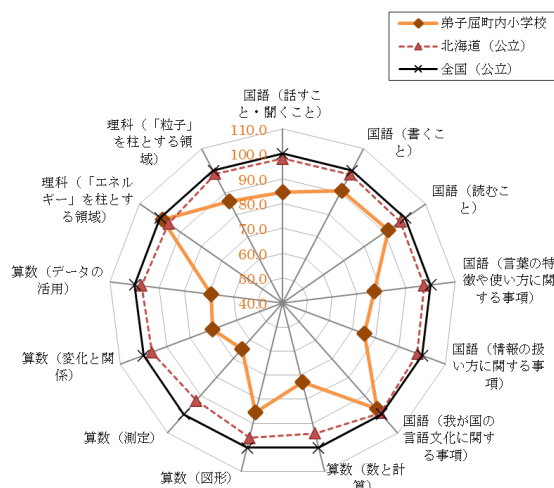
	R3		R4		R5		R6		R7	
	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国
国語	60.7	64.7	65	65.6	73	67.2	60	67.7	58	66.8
算数	66.3	70.2	55	63.2	64	62.5	51	63.4	43	58.0
理科			55	63.3					56	57.1

【中学校】

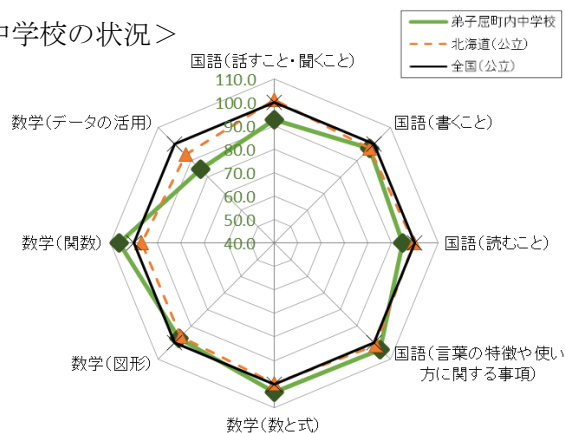
	R3		R4		R5		R6		R7	
	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国
国語	63	64.6	64	69	67	69.8	53	58.1	52	54.3
数学	47	57.2	44	51.4	45	51	53	52.5	47	48.3
理科			47	49.3					503	503
英語					42	45.6				

《教科全体の状況》 ※中学校理科は、平均IRTスコア

＜小学校の状況＞



＜中学校の状況＞



IRTとは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論です。500を基準にした得点で表されています。



理科は「生命」の領域で全国を上回る。国語の「話すこと・聞くこと」、算数は全般的に課題。

○理科：「生命」

●国語：「話すこと・聞くこと」

●算数：「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」

・国語では、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに関わる問題で正答率が全国に近い状況となっています。「話すこと・聞くこと」の領域については、全国平均と比較して、課題が見られます。

・算数は、全ての領域で、全国平均と比較して、課題が見られます。

・理科では、ほぼ全国と同じ状況であり、顕微鏡の操作や発芽する条件の調べ方に関する問題など「生命」を柱とする領域で全国を上回る正答率となっています。

○・・・正答率の高い領域
●・・・正答率の低い領域

数学は「数と式」「関数」で全国を上回る。国語と理科はほぼ全国と同程度。

○数学：「数と式」「関数」

●数学：「データの活用」

・国語では、全ての領域において全国平均より1～4ポイント下の正答率となっています。手紙などの文章を整えたり修正したりすることに関わる問題の正答率が高くなっています。

・数学では、「数と式」の領域の、素数への理解を見る問題や「関数」の領域のグラフから必要な情報を読み取る問題において全国平均を上回りました。一方で「データの活用」の確率を調べる問題で課題が見られます。

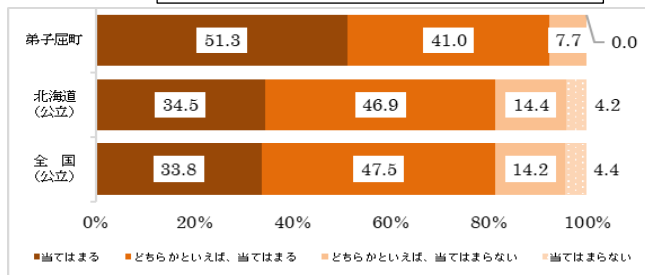
・理科では、「粒子」の領域の、気体の密度の大小を分析する問題で正答率が高くなっています。一方で化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られます。

○・・・正答率の高い領域
●・・・正答率の低い領域

《児童・生徒質問調査の状況》

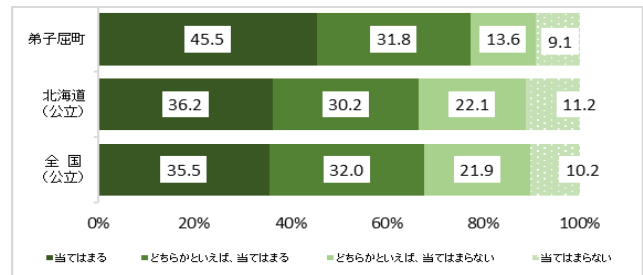
【小学校】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



【中学校】

将来の夢や目標を持っていますか

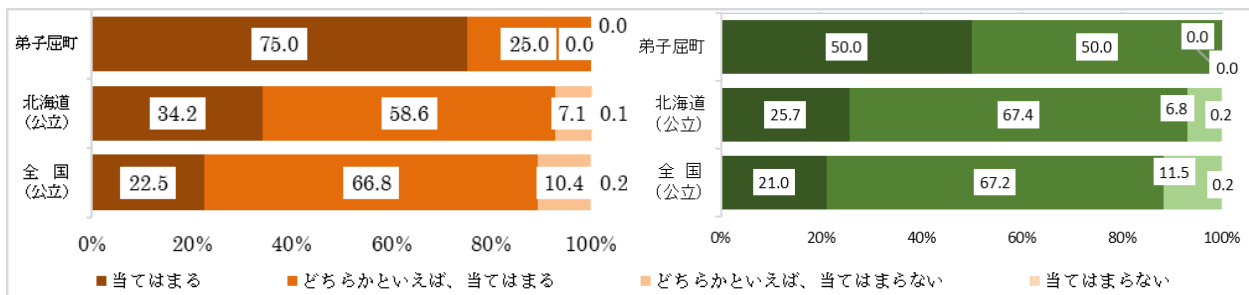


小学校では、「地域や社会のために何かしてみたいと思いますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答した児童が50%を超え、「どちらかといえば当てはまる」と合わせると90%を超えています。また、中学校では「将来の夢や目標を持っていますか」の質問で「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合が高い結果となっています。弟子屈町の子どもたちが、自分と地域や社会の未来を大切に思っていることがうかがえます。

《学校質問調査の状況》

【小学校・中学校】

調査対象学年の児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



学校質問調査からは小学校と中学校で共通して、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」の質問で、「当てはまる」の回答の割合が高くなっています。学校では、児童・生徒が主体的に学ぶ授業づくりに力を入れていることがわかります。また、別の質問からは昨年に引き続きICTの効果的な活用が進められていることもわかっています。

【今後の改善方策について】

(1) 学校では

- ・主体的・対話的で、深い学びの実現に向けた授業改善を継続します。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進します。
- ・それらを実現するためのICTの利活用を一層推進します。

(2) 家庭では

- ・「早寝、早起き、朝ご飯」や安定した生活リズムの確立と継続をお願いします
- ・家で学習したり読書したりする環境と習慣を整え、励ましや賞賛をお願いします。
- ・情報端末機器の使い方や使用時間など、メディアコントロールへのご協力をお願いします。

(3) 教育委員会では

- ・町内の学力・学習状況を分析し、成果や課題から改善策を提示します。
- ・ICTを効果的に活用して、児童生徒の確かな学力の育成を図るため、教師の指導力向上と授業改善の推進に努めます。
- ・学びのプロセスを大切に「総合的な学習の時間・探究的な学習」の充実にも努めます。
- ・各校の校内研修の充実のために必要な情報を提供するなど支援に努めます。